

熟練した卓球指導者の成長過程に関する事例研究

コーチング科学研究領域

5010A084-3 水谷 雄城

研究指導教員 堀野 博幸 准教授

【序論】

スポーツ指導者はどのようにして熟練者（エキスパート）になるのか。多くのスポーツ指導者が興味を持つこの話題は、しばしば議論的となる。スポーツ界ではさまざまな競技で数多くの指導者がいるが、その中でも熟練した指導者であるのは限られた人だけである。それではどのようにして熟練者になっていったのか、その過程は非常に興味深く、研究に値する話題ではないかと考えた。Cote et al(1993) や北村ら (2005) の研究では熟練した指導者がもつメンタルモデルを構築し、指導者の指導行動がどのような意図や予測のもとに選択されているのかが明らかになった。また Bloom et al(1995) や Jimenez saiz(2009) , また Jones et al(2003) の研究では指導者の成長段階についての分析が行われた。しかしこれらの研究に対しては、指導者がそうしたメンタルモデルを持つようになったきっかけについては十分に明らかにしているとは言えず、また、成長に影響を与えた要因の多方面からの検討など、さらなる研究の必要性が指摘されている。

以上のことから、スポーツ指導者はどのようにして熟練者（エキスパート）になったのかという問いに対して、熟練したスポーツの指導者が競技にかかわってから現在に至るまでの一連の成長過程を、時間軸から捉えていくこと、そしてそのリアルな姿

を明らかにするとともに、多方向からの分析をしていく必要があるのではないかと考えた。

【目的】

本研究の目的は、熟練した卓球指導者が、卓球に関わってからどのような成長過程を経て現在に至ったのかを、ライフストーリーインタビューを用いて明らかにすることである。

【方法】

対象者は熟練者の定義に加え、これまでの日本卓球界への貢献度を加味して、2人の卓球指導者を選定した。

・対象者 A. 近藤欽司氏

(現・JOC エリートアカデミー女子監督)

・対象者 B. 吉田安夫氏

(現・青森山田学園総監督)

【データ収集】

2011年8月から11月の4ヶ月間で、研究対象者に対して、1対1のライフストーリーインタビューを用い、1時間～1時間半程度で複数回実施した。初回のインタビューは「あなたはどのようにして卓球を始められましたか」という質問で始め、その後は特に決まった質問は用意せず、話の内容に合わせて柔軟に変化させていった。インタビュー中、研究者は良き聞き役に徹し、

時間軸に注意を払うように心がけた。

インタビューデータは IC レコーダーに録音し，インタビュー後速やかに文字おこしを行った。

【結果と考察】

・対象者 A. 近藤欽司氏

近藤氏が指導を始めてからこれまで 46 年間の指導の中で，大きな 2 回の転機，また日々の経験と内省，そして指導環境や立場の変化が成長の要因として明らかになった。また高校の監督から全日本女子チームの監督へとステップアップすることで，よりマネジメント的な要素を重視する指導行動をとることが明らかになった..

・対象者 B. 吉田安夫氏

吉田氏が指導を始めてからこれまで 58 年間の指導人生を送ってきた。指導を始めてまずは指導の基礎を構築し，それが経験とともに熟達化していくという過程が明らかにされた。また試合での敗戦や，日々の経験や内省，そして指導環境や社会の変化が成長の要因として明らかとなった。彼が指導の際に最も重視していることは確信をもった指導を行うことであり，それは熟練したスポーツ指導者が持つ特徴の 1 つであると考えられる。

・総合考察

二人の対象者の共通点として，20 代前半という早い段階で指導をはじめ，経験を通して熟達化していく過程が明らかになった。また，2 人の対象者が全国大会で安定した成績を残せるようになる時期を境に前期と後期で期分けを行い，指導行動を経営学的

側面からリーダーシップとマネジメントという言葉を用いて表した。その結果，前期ではリーダーシップが重視され，マネジメントの役割はそれほど重要視されていないが，安定した成績を残すようになりキャリアアップすると，リーダーシップは完成に向かうと同時に，マネジメントの役割も重要とするようになり，最終的にはリーダーシップとマネジメントが同等の役割を果たすようになるのではないかと推察された。そしてこの二つの機能を高いレベルで持ち合わせることで，熟練した卓球指導者として必要な条件であるのではないかと考えられる。

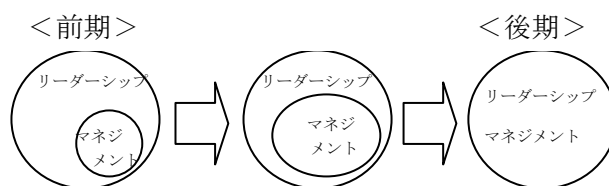


図. 指導行動から表した 2 人の対象者の成長過程
水上らの研究（1993）から引用，一部加筆

【結論】

本研究では二人の熟練した卓球指導者を対象に，卓球に関わってからどのような成長過程を経て現在に至ったのかを，ライフストーリーインタビューを用いて明らかにすることを目的とした。インタビューを通じて二人の日々の経験，転機，敗戦，学習，立場（役職）や環境の変化などさまざまな要因が成長に影響を与えていることが明らかにされ，現在に至るまでの過程をリアルに表すことができた。